

熊坂てつ 議会レポート



連絡先 〒243-0303 愛川町中津 3861 電話 046-285-0755 <ホームページ> <http://www.tetsu-kumasaka.com/>

介護保険がスタート



認定をされた人されなかった人、希望するサービスが受けられた人受けられなかった人、いろいろな問題をかかえて介護保険がスタートしました。

一番の関心は保険料です。愛川町は月額 2,860円という数字が出ました。ところが、これを払う65歳以上のお年寄りはいたいが年金生活者です。年金生活者といっても、厚生年金をもらっている人と国民年金をもらっている人ではその額にかなりの差があります。

国民年金の場合、月々2～3万円しかもらっていない人も多くいます。その中から、毎月3,000円近い保険料を払うことになるのですから大変です。同じ保険でも国民健康保険と比べるとよくわかります。国保は保険料の最低と最高の差が所得や資産に応じて30倍もの開きがありますが、介護保険はたったの3倍で、所得の少ない人の負担がとて重くなっています。

しかも、保険料の区分で信じられないようなことが起こります。本人が住民税非課税の方は第3区分に入りますが、ここには260万円の年金をもらっている人も年金がゼロの人も入っています。つまり、年金収入がゼロの人も260万円の年金をもらっている人も同じように、毎月2,860円の保険料を払わなくてはならないのです。まだ今年は、本格的な保険料の徴収が行われないのであまり問題になりませんが、いずれきっと大きな社会問題になると思います。

保険料については、もうひとつ奇妙なことがあります。サービスが利用できる65歳以上の人たちについては、「自自公」の選挙対策もあって、半年間保険料は免除、残りの半年も半額免除です。もちろん財源は赤字国債ですから、このツケは将来の世代＝私たちの子や孫が払うことになります。それに引換え、サービスが利用できない65歳以下の人たちはがっちり保険料が徴収されます。利用する人が保険料を払わないで、利用しない人が保険料を払うなんてこと、一体誰が考えたのでしょうか。

* 介護保険条例についての陳情と介護保険制度の改善・充実を求める陳情が出されましたが、いずれも継続審査になりました。

老人保健施設「せせらぎ」

厚木市や相模原市にはあるが、いままで愛川町にはなかった老人保健施設ができることになりました。

場所は、角田字戸倉4369番地付近、戸倉屋さんの前あたりです。鉄筋コンクリート2階建て、入所者数は66名、内痴呆の方も15名が入所できます。来年夏ごろ完成の予定。建設費約10億円の内、町が7600万円の補助をします。

老人保健施設というのは、病状が安定して入院の必要はないが、リハビリテーション、看護、介護を中心とした医療ケアを必要とする方、たとえば寝たきりのお年寄りや痴呆性の方などを対象に、短期入所や通所サービスを行う施設です。

いわば、病院と老人ホームの中間的な施設で、病院を退院して家庭に戻るあいだに、療養と機能訓練が受けられる施設です。

12 年度予算あれこれ

下水道料金の値上げ

予算を審議する3月議会では、いろんなことが決まります。なかには公共料金の値上げのように、あまりありがたくないものもあります。

じつは、10月から下水道料金が平均で17.3%と大幅に引き上げられます。

下水道会計が苦しいということは分かります。しかし、都市計画税も納めていて、その上17.3%の値上げというのでは納得がいきません。せめて、10%以下に抑えるべきだと主張しました。委員会では、実際に計算してみて、それが可能なことも示しました。

町の財布はひとつです。要は、お金のやり繰りの問題です。トップにその気があればできるはず。でも、もっと他に使いたいことがあるので、料金を値上げして、それで解決しようというのが、町の考え方なのです。

公共施設の休日オープン

相模原市や厚木市ではすでに実施している。本町でもできないか、町の考えが問われた。

ところが、そのための経費を推計したところ、田代運動公園や文化会館など7施設あわせて約1500万円が新たに必要となることがわかった。あまりにも費用がかかり過ぎるということで、見合わせることにしたという答え。

何も全部いっしょにやらなくても、利用者の多い施設から試行的にやってみたらどうか。図書館や公民館など休日オープンを望む声は多い。新たに建物をつくることを考えれば、今ある施設を最大限利用した方がコスト的にも安いはずだと思いが、どうだろう。

図書館のデータベース化

11年度は2月の1か月間を休館して、17,000冊の児童図書が終了しました。

今年度については、一般書37,000冊を10月、11月の2か月間、図書館を休館して行うという説明があった。いくら何でもちょっと長すぎるので

はないかと指摘したところ、町も努力して40日に短縮、あわせて半月ほどかけて4月に行っていた書庫の整理もそのとき一緒に行うことにし、新たに増える休館日は実質20日間に押さえるという説明があった。

父子家庭への生活援助

町内にはいま138世帯の父子家庭があります。中にはきっと、子育てと仕事に追われて目のまわるような生活をされている方も多いと思います。誰かにお手伝いを頼みたいときもあることでしょう。ちょっと手助けしてもらっただけで、精神的にも楽になり、生活に余裕にできます。

そんなとき、愛川福祉サービス協会のホームヘルプサービスが利用できます。しかも、その利用料の一部を町が援助してくれる制度があります。ところが、現在、利用しているのはたった2世帯しかありません。

短期ホームケア

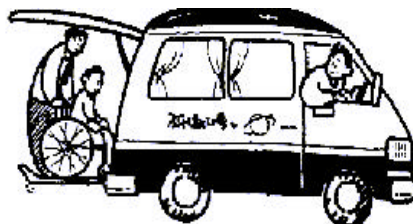
短期入所のことです。介護保険では利用できる日数が少ないので、町がそれに上乗せしてくれます。

ただし、5割負担、金額にして約5000円ほどがかかります。もっと負担を軽くという議論もあったのですが、認定を受けて正規にサービスを利用する人の妨げになる恐れがあるという理由で、5割負担ということになりました。しかし、聞くところによれば、他の自治体は1割負担の所が多いようです。

移送サービス

病院への通院や施設への入所や退所の際にハンディキャプが利用できます。対象となるのは、通院などがむずかしい障害者や寝たきりの高齢者および介護者の方です。

利用回数はいままで月2回だったのが、今年からは月4回の利用ができることになりました。



スクールカウンセラー

11年度の実施状況について、3中学校合わせて、延べ相談者は1,769名、前年度より200名以上増えた。

相談者の内訳、生徒：75%、教員：10%、保護者：12%。小学校への配置については今後の研究課題である。

保育園への入所

平成12年度の入園予定児童は426名です。その他に48名が保留になっていますが、その内のほとんどの方が現在、休職中ということで保留扱いになっているという説明があった。



海外調査研究

アメリカ地域へ9日間程度、毎年一人ずつ交代で行きます。課長級以上の職員で、希望を募り、複数の申し込みがあった場合は、最も上席にあるものが派遣されます。

12年度予算を読む

「古い頭」はすぐには変えられない

いま時代はこれまでの成長型社会から成熟型社会へ、「ものの時代」から「心の豊かさの時代」へと変わりつつあります。こういった時代状況をふまえて12年度の予算がつけられました。

いや、そのはずでした。が、フタを開けてみれば、相変わらずの「はこもの」づくりが優先され、ものの時代が幅を利かせています。いまだにバブルの時代の発想から抜けられないからです。

第四次総合計画：ゆめ愛川2010というものをご存じですか。「本町の人口は、21世紀初頭には5万人に達することが予想され、また、都市行政（＝市昇格）への移行が施策の大きな柱となって」くる、つまり、町の発展・成長 人口増加 市への移行、これが、ゆめ愛川2010が描く将来ビジョンです。

選ぶことはまた捨てること

予算化されなかったいくつかのこと

* 密閉型の生ゴミコンポストへの助成

昨年の9月議会で予算化するよう要請したが、思いは通じなかった。家庭の台所でできて確実にごみが減るのに、なぜ、やらないのでしょうか。

* 小児医療費の助成

3歳までの所得制限はなくすべき。本気で子育て支援をするのだったら、所得制限はなくしてほしい。もともと、若い人たちは所得にそんなに差があるわけではなく、少しの差で受けられなかったりするのは、逆に、不公平ではないか。子どもが病院にかかるのは決して贅沢なことではないのだから。

* 地域情報化推進事業費

去年はたったの16万円、今年は33万5千円。とても、地域情報化を進めようとする自治体の予算とは思えない。

* 教育費

これだけ教育現場が危機的な状況にあるというのに、金額も中身も変わり映えがしない予算。トップが本当に責任を感じているのなら、教育予算を倍増させるぐらいの意気込みがほしいと言ったら、あっさり、教育はお金ではないと言われてしまった。

近い将来、人口が5万人を超えて愛川町が市になるなんて、バブルの時代ならいざ知らず、いったい誰が今そんなこと本気で考えるでしょうか。ところが、12年度予算はこの計画の見直しではなく、逆に積極的な推進がその目的とされたのです。

ですから、中身は相変わらずの公共事業のオンパレードです。庁舎周辺核づくり事業、公共施設の集積をはかり役場城下町をつくるとか、それから何と眠っていたはずの博物館計画までが目を覚ましてしまいました。そして、貴重な生態系の保全が危ぶまれている幣山下平線については、自然にマッチしたハイウエーをつくって本町の名所にしたいというような発言まで飛出しました。

このように、新しい時代にマッチしたアイデアが乏しく、結局、「ハコものづくり」に終わってしまうのは、トップが時代の変化を読むことができず、来るべき時代のランドデザインを描くことができないからです。

3月議会での一般質問

1. 入札制度の改善について
予定価格の2/3という調査価格の下限は
なくしたらどうか
低入札価格調査制度の対象を2000万円以上の
工事に限定したらどう
2. 幣山下平線について
自然生態系の調査をどこに依頼するのか
自然生態系調査の目的は何か
町が行う分布調査の目的・ねらいは何か
環境審議会への諮問について
専門家の意見について
3. 障害者基本計画について
今が準備にとりかかるチャンスではないか

町長答弁の要旨

1. 入札制度について
これを撤廃すると、無制限な受注競争となり、公
正な取引秩序をゆがめ、建設業の健全な発達を
阻害することになる。工事の手抜き、下請けへの
しわ寄せなども心配されるので、慎重に見守って
いきたい。
予定価格の2/3というボーダーラインがない
場合は、直接工事費すら確保できない状況が推測
されるので、最低1年ぐらいは現行の500万円
で行い、その結果によって改定が必要であるか考
えたい。
2. 幣山下平線について
2月8日付をもって、神奈川県知事に要請した。
12年度において、町学芸員によるオグラヒラタ
ゴミムシの生息分布調査を計画している。
今後の道路計画に反映させるために調査を実
施する。
環境審議会の中でご審議いただくことが適切で
あると申し上げたことはあるが、審議会にお諮り
するとは答弁していない。どうぞ議事録をご覧に
なっていたきたい。
相談させていただいたのは、県及び町の学芸員で
ある。その内容は、昆虫類の習性、生態環境や道
路構造、道路線形などである。
3. 障害者基本計画について
障害者への対応については、予算の概要をご覧
いただいて、いかに細かい分野についてまできめ細か
な施策を執行しているかご理解いただきたい。今後
は、個人が尊厳をもってその人らしい生活が送れる
ように質の高い福祉サービスが受けられるよう指
針となる基本計画の策定を検討したい。

声の欄 (受話器の向こうから)

愛川町がマツの葉によるダイオキシン調査でワ
ースト・ワンになった新聞記事が出たその日の夜、
3人の方から、愛川町は一体どうなってるんだとい
う電話をいただきました。

固定資産税についての電話も時々いただきます。
地価が下がっているのになぜ税金が上がるのか、収
入がぐんと減ってしまったので納めるのが大変、
どうしても評価の仕方が納得できない、不服申し立
てをしたいのだが、と言った電話までありました。

それとよく話題に出るのが町内循環バス。いろん
なご意見をよく聞きます。最近、数人の方から、何
でも無料というのはおかしい、例えば100円でもい
いから運賃をもらったかどうかというご意見があ
りました。(バスの予算は年間約1500万円程)

私のコメント

1. 入札制度について
昨年、工事関係の予定価格の総額は約37億円、落
札額は30億2千万円、平均落札率は約77%でした。
数年前までは95%前後でしたので隔世の感があり
ます。
落札率が1%下がれば3000万円、10%で3億円
もの税金が節約できます。
2. 幣山下平線について
公文書公開請求して手に入れた資料を見ると、
町はとんでもない要請を県にしています。尾山
耕地周辺ではなく、県下全域での調査を依頼し
ているのです！
環境審議会でご審議いただくことが適切である
と言っておきながら、なぜ、その適切なことを
なさないのか、これが「詭弁」でなくて何で
しょう。
公文書公開請求で手に入れた資料によれば、と
ても「相談させていただいた」と言えるような
内容ではなかったことがよく分かる。町から相
談を受けた県立博物館の学芸員の方は怒りに満
ちたファックスを道路課長宛に送ってきていま
す。この間のやり取りを見れば、町が口では環
境に配慮すると言いつつ、ちっとも環境に配慮
していないことがよく分かります。
3. 行政の情報化について
実力派の福祉課長も赴任してこられました。長
寿課に負けないう、今後の取り組みに期待しま
しょう。